

答 辞

日差しが日一日と暖かさを増し、景色が春の色に染まりゆく季節となりました。本日は私たち卒業生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、船田理事長並びに渡邊学長、ご来賓の皆様、在学生から温かいご祝辞を頂きましたこと、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

四年前、私たちは同じ場所で新たな一步を踏み出しました。これからどんな学生生活が待ち受けているのだろうと、期待と緊張で胸を高鳴らせていた入学式のことを、今でも鮮明に覚えています。入学当初は、慣れない学生生活に戸惑う事ばかりでしたが、周囲の方々の助けを借りて少しずつ馴染むことができました。また大学には、サークル活動や部活動、ボランティア、資格取得講座など、様々な学びの場も充実していました。思い出すとつい微笑んでしまうような楽しい思い出がたくさんあります。本日で学生生活も最後だと思うと、そのあまりの早さに驚いてしまいますが、どの思い出もかけがえのない財産であり、これからの人生の糧になると信じております。

本学で過ごしたこの四年間は私にとって、新たな活動への挑戦と発見の連続でした。作新祭の運営のために、メンバーと毎日夜遅くまで大学で作業したこと、豪雨被害の被災地にボランティアとして参加したこと、資格取得のために勉強に励んだことなど、多くの活動に挑戦する機会に恵まれていました。そこには、挑戦したからこそ得ることのできた精神的な強さや、学ぶことのできた多様な価値観があるということ、身を持って発見する貴重な経験となりました。

一方で、新型コロナウイルスの影響により私たちの生活も大きく変化し、その余波は就職活動にまで及びました。先が見えない状況の中、いくつもの不安と戦いながら、必死に何かを掴もうと模索する日々を送った者もいるのではないかと思います。些細なことが特別になってしまった今、より強く感じていることは多くの人々の支え無くして今の自分はいないということです。多くの方々からの支えがあってこそ、今の私があるということを知った大学生活四年間でもありました。

私たちは本日卒業という区切りを迎えると同時に、新たな道のスタート地点に立ちました。この先一人一人の進む道は異なりますが、皆様への感謝の気持ちと、本学で培った経験や知識を胸に、日々邁進していきたいと考えております。

最後になりますが、今日まで未熟な私たちをご指導してくださいました諸先生方、学生生活の支援に尽力してくださいました職員の方々、大変お忙しい中ご臨席賜りましたご来賓の皆様に改めて御礼を申し上げます。そして、今日まで成長を見守り続けてくれた家族に感謝致します。そして、作新学院大学の今後の益々の発展を祈念致しまして、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

令和三年三月二十一日
作新学院大学 人間文化学部人間文化学科
第二十八期卒業生代表 小森 千遥

